

忘れられた叡智を求めて

新連載

これから世界の資本主義は、どう変わっていくのか。

それは、二〇〇八年に勃発した世界経済危機の後、多くの人々が心に抱いている問いであろう。そして、この問いに対して、やはり多くの人々が感じている答えがある。

資本主義は、成熟しなければならぬ。

では、「資本主義の成熟」とは、何か。

その答えを知るためには、難しい経済学の議論よりも、むしろ、一つの素朴な問いを問うべきであろう。

「人間の精神の成熟」とは、何か。

そして、もしその問いを真摯に問うならば、答えは明らかであろう。

「目に見えない価値」が見え

日本型資本主義と日本型経営が復活する時代

るようになること。

それが、人間の精神の成熟に他ならない。

我々の精神は、年齢を重ね、経験を積み、叡智を身につけるにつれ、「目に見えない価値」が見えるようになってくる。例えば、「言葉にならない智慧」「人間同士の絆や縁」「相手からの信頼」「世間の評判」「組織の文化」。そうしたものが、分かるようになってくる。

そして、「人間の精神の成熟」とは、「目に見えない価値」が見えるようになることであるならば、「資本主義の成熟」とは、「目に見えない資本」を重視する資本主義になっていくことであろう。

では、「目に見えない資本」とは、何か。

それは、端的に言えば、「貨幣資本」では表せない資本の

こと。例えば、社員の持つ知識や智慧(知識資本)、外部

の人材や組織との良い関係(関係資本)、社会的な信頼(信頼資本)、世の中の高い評判(評判資本)、組織の優れた文化(文化資本)、社員同士の共感や顧客との共感(共感資本)などである。

近年、すべてを貨幣資本で評価し、企業の価値も財務諸表のみによって評価するという風潮の中で、こうした「目に見えない資本」を深く見つめ、その長期的な蓄積と増大を図っていくという成熟した思想が見失われてきたが、そのことに深い危機感を持つ経営者は、決して少なくない。

なぜなら、昔から、日本型経営や日本型資本主義においては、「目に見えない価値」や「目に見えない資本」を大切



田坂広志

[ソフィアバンク代表
多摩大学大学院教授]

にする思想、精神、叡智が存在し、その思想、精神、叡智は、我が国の経営者の中で、脈々と受け継がれてきたからである。

いま、成熟が求められている世界の資本主義は、これから「五つの深化」を遂げていく。そして、その深化の結果求められるようになる「新たな価値観」とは、実は、日本型資本主義にとっては、永く大切にしてきた「懐かしい価値観」に他ならない。

次回より、その資本主義の「五つの深化」について述べていこう。そして、グローバル化のなかで、我々が忘れてしまった、日本型経営と日本型資本主義の根底に宿る「深い叡智」に、新たな光を当てていこう。この日本という国の復活を願いつつ。